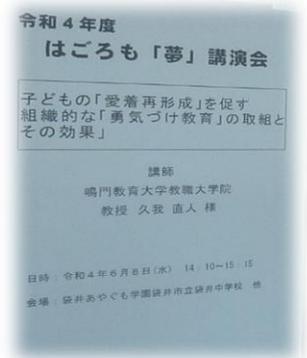


# 真・魅力通信

保幼小中一貫コーディネーター：奥村 崇志

## 第2回袋井あやぐも学園幼小中一貫教育研修会 ～取組の真化を目指して～

6月8日（水）、袋井あやぐも学園の保幼小中の教職員を対象に、研修会が行われました。感染症対策を講じながら分散会場での実施となりました。はじめに、小澤一則統括校長から“令和3年度の一貫教育に関する市全体のアンケート結果”から見える「袋井あやぐも学園の強み」を紹介していただきました。具体的な強みとして、「学校に信頼できる先生がいる」「みんなで何かをするのは楽しい」「学園内の教職員が15歳の姿を意識し連携して指導を行っている」等の項目が挙げられました。これらは、本学園が取り組んでいる自己有用感を高める『ボイスシャワー』や『聞く指導』を保幼小中一貫して取り組んでいる成果だと思えます。令和4年度は、幼小中一貫教育3年目の節目の年度として、これまでの取組やカリキュラムを全職員で確かめ、真化させる年にしていきましょう。「真化」の「真」には、“まこと”や“ほんもの”という意味が込められています。



次に、鳴門教育大学教職大学院教授久我直人先生から、「子どもの『愛着再形成』を促す組織的な『勇気づけ教育』の取組とその効果」について御講演いただきました。久我先生の理論は、袋井あやぐも学園運営の柱になっている考え方です。



講演後は、各校分散会場にてリモートによる分散会が行われました。「幼小中一貫カリキュラムと各校・各園の教育課程がどうつながっているか、これからどうつなげていくことができるか」というテーマで、話し合いました。(次号でその内容を紹介します。)

当日は、学園運営協議会も行われ、久我先生の講演を聞いた後、袋井あやぐも学園の運営方針や経営方針を協議しました。



※ 袋井あやぐも学園のあゆみは、「デジタル職員室→掲示板→袋井中校区」を御覧ください。